

# 体験の意味づけを促進するふりかえりの場のデザイン —語りの関係性の分析—

○文野 洋 (文京学院大学)  
青木弥生# (こども教育宝仙大学)  
勝谷紀子# (北陸学院大学)

亀井美弥子 (湘北短期大学)  
土倉英志# (法政大学)

キーワード：ふりかえり，語りの関係性

## 目 的

体験学習のプロセスには、体験についてのふりかえりも含まれることから、ふりかえりの質を高めることが重要になる。ふりかえりについての研究は、学習におけるその導入の効果の検討から、いかに充実したふりかえりを行うかという、ふりかえりの場のデザインに関心が移ってきている。

文野(2008)は、乳幼児とのふれあい体験のワークショップ(以降、ふれあい体験WS)におけるふりかえり場面を検討し、ふれあい体験の意味づけと他者とのふり返りにみられる特徴を探索的に明らかにした。本研究では、2008年度実施のふれあい体験WSも含め、ふりかえりのコミュニケーションにおいて語りの関係性(文野, 2007)がいかに形成・維持されるかを詳細に分析することで、体験の意味づけを促進する体験学習およびふりかえりの場の設定についての知見を深めることを目的とする。

## 方 法

ふれあい体験WS「赤ちゃん誕生は100年のあゆみ」は2006年から3年間、夏期に3日間1クールとして年3-4クール開催された。

毎年各クールの参加者は概ね、東京都内の大学生4名前後、大学近隣地域に住む中学生4名前後であった。午前中に大学近隣の保育所の日課に参加し、乳児または幼児の保育を体験し、午後にはふりかえりの感想会を行った。

各参加者および保育園児の保護者に対し、調査の目的とデータの管理・使用方法について説明を行い、協力の同意を得た。

**調査手続き** 感想会は、活動をふり返り、感想を記入するためのワークブックを用いて行った。また活動の様子はビデオカメラで撮影し、感想会ではICレコーダによる記録も行った。

**分析手続き** 各年度、各クール午後の感想会の場面を対象とした。語りのテーマや関係性に注目してビデオ記録を検討し、ふれあい体験の意味づけと他者とのふり返りにみられる特徴をまとめた。

## 結果と考察

ふりかえりにおいては、進行役と参加者との間に「質問者-回答者」の関係性が維持されやすい。ただし、同じ体験学習に参加している進行役の場合は、共成員性を可視化することで共同的な意味づけを促進する機会があることが示された。

2種類の活動をグループに分かれて実施した場合には、ふりかえり場面において、主にグループ単位の意味づけを行っていた。同一の体験を行ったグループ内では「参加者どうし」の関係性が維持され、新たな体験の意味づけを得ている事例がみられた(Table1)。このような体験報告の際に、他方のグループのメンバーが「同様の体験をする者」として意味づけに参加する「語り=聞く」関係性もみられた。同じ活動をグループ別に時間差を設けて体験し、ふりかえることで意味づけが深まることが示唆された。また、文野(2008)と同様に「私的」な体験の報告では意味づけが単調になるものの、同じ場に参加したメンバーが自分の体験を相手の体験に重ねて報告することで意味づけが促進されることが新たに示された。

効果的なふりかえり場面のデザインを考慮する上で、語りの関係性をはじめ、ふりかえりの相互行為を詳細に記述することが有効である。

Table 1 同一体験グループのふりかえり(参加者どうしの関係性)

WS2008:2クール2日目	
(1) Sさん:	おむつ替えるときは、すごい暴れたね。【足すごい動かすから】
(2) 進行R2:	【暴れるなか2人がね、一生懸命ね、【感想を促す意味づけ】 替えたんだよね】
(3) Mさん:	(Mさん名前)今気づいた。なんか、こうおしり持つじゃん、ちゃんと足上げてくれるよね(Nさんの方に身体を向けて両手で赤ちゃんが足をあげるまねをする) 【気づきの意味づけ】
(4) Nさん:	コロコロ転がっちゃう感じ(左手で倒れる動作をする) 【Mさんの意味づけの確認】
(5) R1:	あー
(6) Mさん:	そうそう、上にこう足上げて、ちゃんと入れやすいようにしてくれる、赤ちゃん 【Nさんへの承認とともに自分の意味づけを追加】
(7) R1:	うーん、もうわかっているんだ
(8) Sさん:	2人は上達が早かった、抱くのも一おむつ替えも一、手際よく自分は全然なんかねー、抱いたんだけどねー、結構なんか、たどたどしかった 【2人の手際を評価することにより、2人による気づきの断片をおむつ替え体験の一部に位置づける】

【発語の重なり、(補足事項)】